

駅を見守り、人びとのよき一日を見守る。



火の国阿蘇の
恵みのブランド

阿蘇
Aso City

大分と熊本を結ぶJR豊肥本線は、「阿蘇高原線」とも呼ばれる。その愛称どおり、カルデラという大鍋のなかを横切っていく列車だ。全線単線、無人駅も多く、のどかな鉄路である。

内牧駅も無人駅に含まれるが、集改札や定期券販売、清掃などの仕事を松本直美さん(写真右)とそこご主人、石松一子さん(写真左)の二人で請け負っている。

列車が停まるのはほぼ一時間に二本、でも気が抜けない。事故やトラブルで不通になったら対応に任せてこ舞いとなる。駅というのは、交番や郵便局とならんで町の「解説所」のような役目も担う。

「道を尋ねて来られる方もいますしね」
散歩の途中で寄ってくれた人と世間話など、

町のふれあい施設的でもある。通学の学生たちが朝の常連客。彼らにとって「毎日感謝を新たに」することはないけれど、居てくれなければ困る存在。つまり「駅守(えきもり)」なのだ。

豊肥本線内牧駅

松本直美 石松一子

あるがまま、という貴さ。
人と自然が共作する阿蘇。